

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年8月31日(2017.8.31)

【公開番号】特開2015-110124(P2015-110124A)

【公開日】平成27年6月18日(2015.6.18)

【年通号数】公開・登録公報2015-039

【出願番号】特願2015-57325(P2015-57325)

【国際特許分類】

A 6 2 C 35/02 (2006.01)

【F I】

A 6 2 C 35/02 B

【手続補正書】

【提出日】平成29年7月18日(2017.7.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

消火剤を貯留したメインタンクと温度を検知するためのセンサとを備えており、
前記センサが所定の温度を検知すると、メインタンク内の消火剤を外部へ放出させることを特徴とするスプリンクラー消火装置であって、

横向きに設置された圧縮ガスを充填してなるサブタンクと、そのサブタンクの排出口が接続されているとともに前記メインタンクと連通するようにガス流路が設けられたハウジングと、付勢手段およびピン部材を有しており前記ハウジングに内蔵されたトリガーとを備えており、

前記センサが所定の温度を検知すると、前記付勢手段によって前記ピン部材を前記サブタンクに突き刺して、そのサブタンク内の圧縮ガスを水平方向に噴出させた後に前記メインタンク内へ流入させることによって、メインタンク内の消火剤を下向きに放出させることを特徴とするスプリンクラー消火装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明の内、請求項 1 に記載された発明は、消火剤を貯留したメインタンクと温度を検知するためのセンサとを備えており、前記センサが所定の温度を検知すると、メインタンク内の消火剤を外部へ放出させることを特徴とするスプリンクラー消火装置であって、横向きに設置された圧縮ガスを充填してなるサブタンクと、そのサブタンクの排出口が接続されているとともに前記メインタンクと連通するようにガス流路が設けられたハウジングと、付勢手段およびピン部材を有しており前記ハウジングに内蔵されたトリガーとを備えており、前記センサが所定の温度を検知すると、前記付勢手段によって前記ピン部材を前記サブタンクに突き刺して、そのサブタンク内の圧縮ガスを水平方向に噴出させた後に前記メインタンク内へ流入させることによって、メインタンク内の消火剤を下向きに放出させることを特徴とするものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0007
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0008
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0009
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正6】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0011
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0011】

請求項1に記載のスプリンクラー消火装置は、スプリンクラーヘッドに設けられたセンサが所定の温度を検知すると、メインタンク内の消火剤をスプリンクラーヘッドから外部へ放出させるため、火事を敏感に検知することができる上、非常に効率的に鎮火することができる。

【手続補正7】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0012
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0012】

請求項1に記載のスプリンクラー消火装置は、サブタンク内の圧縮ガスを利用して、メインタンク内の消火剤をスプリンクラーヘッドから短時間の内に放出させることができるので、火災が広がる事態を効果的に防止することができる。

【手続補正8】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0013
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0013】

請求項1に記載のスプリンクラー消火装置は、火災の際にトリガーが確実に作動して、延焼する事態を効果的に防止することができる。